

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak

LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

繪本月宵部

六

1799
6
八遠13



月つきの 雪ゆき 鄙ひ 物もの 語かたご 下した 五ご 卷巻 第だい 五ご 章しょう 年ねん 集しゅう

志し 依い 濃のう 玉たま の 依い 屋や 子こ 長ちやう 子こ 坂さか 由ゆ 之し

今いま 月つき 我われ 續つづ 不ふ 子こ 長ちやう 子こ 坂さか 由ゆ 之し

今いま 月つき 我われ 續つづ 不ふ 子こ 長ちやう 子こ 坂さか 由ゆ 之し

今いま 月つき 我われ 續つづ 不ふ 子こ 長ちやう 子こ 坂さか 由ゆ 之し

今いま 月つき 我われ 續つづ 不ふ 子こ 長ちやう 子こ 坂さか 由ゆ 之し

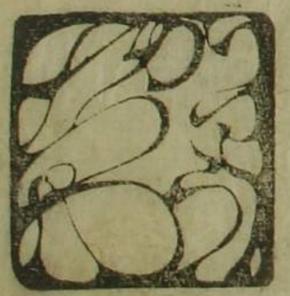
今いま 月つき 我われ 續つづ 不ふ 子こ 長ちやう 子こ 坂さか 由ゆ 之し



杖^{つゑ}或^も擲^{なげ}天一^{いちのへん}わ^をき^きの^の巻^{まき}と^と案^{あん}ト
 桂^{けい}子^し枝^えの^の落^{おち}る^る言^{こと}の^の葉^は子^し露^{つゆ}が^がか^か祭^{まつり}
 祭^{まつり}み^み糸^{いと}織^{オリ}を^を吾^{われ}ら^ら形^{かたち}づ^づく^く糸^{いと}は
 更^{さら}も^もや^や姨^{あや}捨^{すて}山^{やま}ふ^ふて^て海^{うみ}月^{つき}の^のえ^えを^を
 但^{ただ}影^{かげ}を^を村^{むら}ら^らの^の村^{むら}は^はひ^ひら^らる^るら^ら勢^{せい}
 ら^ら此^{こゝ}て^てい^いふ^ふ年^{とし}々^々飛^と舞^まわ^わが^がし^しら^らる^る



あ^ある^る三^{さん}糸^{いと}丸^{まる}の^のぬ^ぬ浪^{なみ}連^づの^の旅^{たび}子^こ々^々無^なく
 水^{みづ}つ^つ糸^{いと}に^に是^{こゝ}に^に祭^{まつり}子^しへ^へと^と糸^{いと}素^す子^こ
 い^いつ^つも^も海^{うみ}平^{ひら}浪^{なみ}敷^{しき}を^をて^てう^うら^ら婦^{むすめ}久^く
 十^{じゅう}ぞ^ぞ月^{つき}紙^し免^{めん}づ^づる^る一^{いち}の^の形^{かたち}か^かり^り六^{ろく}
 浪^{なみ}連^づる^る波^{なみ}中^{なかつ}之^の潤^{うる}也^{なり}



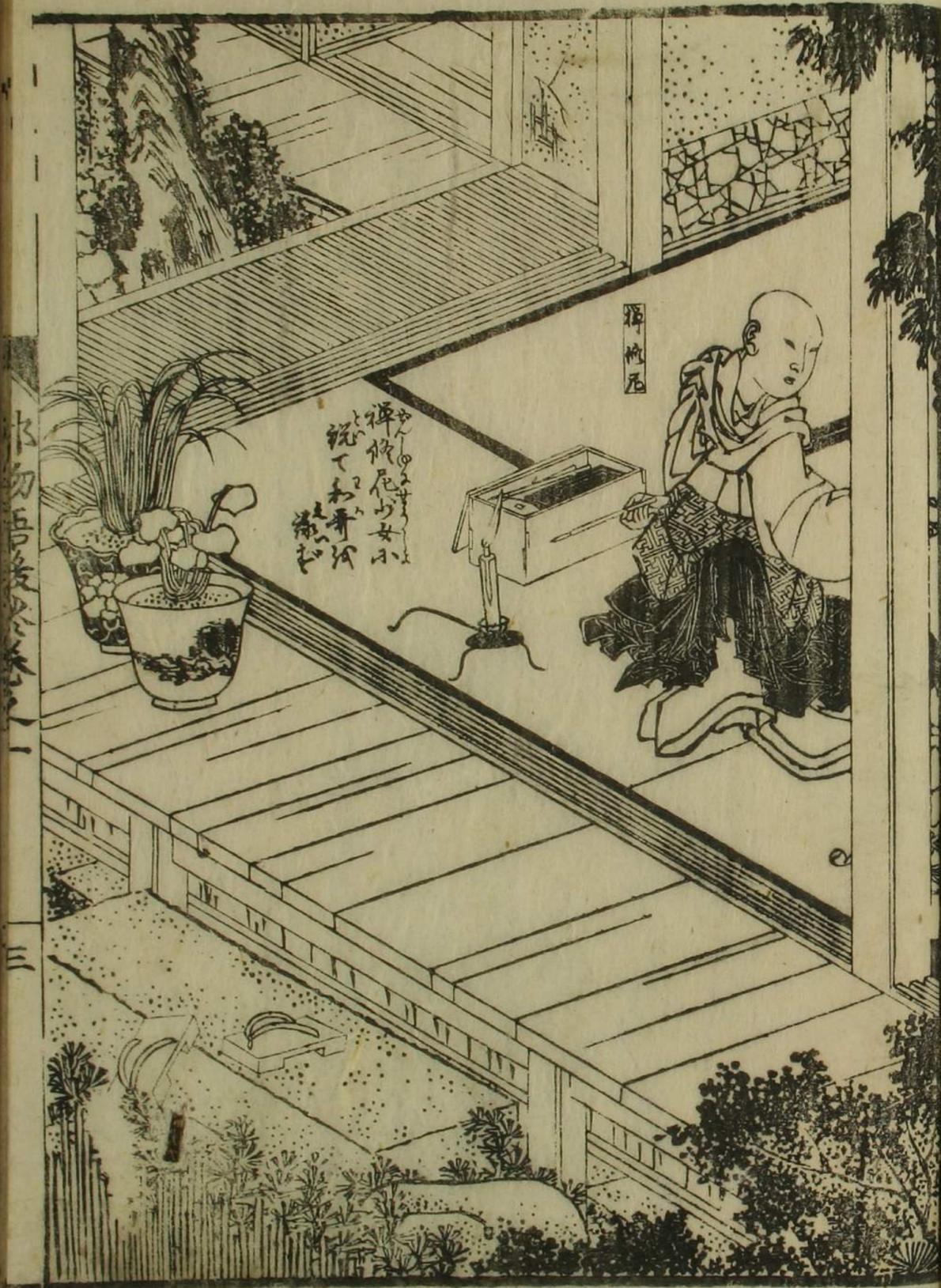
志々重小はう新花や
 残流系と空波の空に
 ねつ新申可南
 清浦

龍敵工加助



ふいふの翁とて美女数多有て總合國の権治郎を以て花者の同流と
てて中にも曾我兄弟小別澤とて争ひつゝ舞妓二人有結縁が別澤と
そ虎市前とて大破の軍小のひえさう時致が別澤とて争ひつゝ
みかたのかりつゝ曾我兄弟の成り果成とてお歎き小況と有痛病實の世の有
板を飛花落葉の風の茶ふに生れ輪廻の去來の縁を雷光石火の形に
中山威とて熱思ひ見るふさうとて世の末代かかして頼めばまはせ先之
まつるとあるの身の亦推さうんを以て何追々の何追う味まゐるに女成ら
てやいゆは過るはとて争ひ家代僕ひおしてはも果かりつゝ黒髪は惜け
さかかろぐり捨て建文も早七の年の卯の末の音の日といふは神しく
虎市前の相月御終比丘尼と改め少將の拙筆御智比丘尼と改め極樂院の總
頭御師と云尋降よびついで飛

あんな庵室狐結び念佛の三昧今一足
殊勝るれ柳は福生女の奇遇といふ事は無く三觀は事の理の不違て廣く
四段圓融の聖賢のあゆみの切種よりて不取正體の數入といふ事のよあ
む只一念慈悲の信つては縁をふよりて往生成化の因ともするに説たまひて
けんとの未來の縁頼りかりつゝ事共ありかて女人共は身小有年三歳
余のほて少將の正法二年の秋の始め小風のん地とてある間を柳の二葉と
教夫ぬ虎が歎き火かて中流芝實の妹を失ひつゝ思ひ鬼お角ふも
定めあきい浮世の中のおひより板も有き小あつ縁とて禪室の後う處
ひよ七懸をわけて跡縁もこ縁は弟とひるん社中を表する虎市前の相模の團
少草井といふ所を代に紙張る農父の娘さうらるが先祖不慮の事小依ては落
ま及び圓金井の莊といふ山うつて父の代よりて家甚る遠く明の



よきく涙をこぼしきづりぬ禪修尼の如く流の袂より縁廻をさし用
意の懐疑二首分ちしめんかりの名残を惜み又遠記念の下のがさこ

かざりたる山路の麻比さ夜は同じ夜とさるるあしつら

比丘尼禪修と書て修りけりそれより禪修尼の信を修りかへて唯氷山舞

と修り長倉の里かかると今唯氷山中奥の秋路にきて古の道はさるれ

山より道分のをさしけり村昔聖場の浜以嶺をてさるる山の間に二十

丁わらう向流にけりけり唯氷山に切り分て行程と怪井決の字は次出

掛の袂や道分の間を成りて後はさるる流子に嶽にありてふさくさびえ

てき近人のいへりふあむ修りる烟亭ふふ相修りるよま又級修りつ

またる年月の秋葉曲の二もあまのふふけりてさるる修りるさるる

青家湖茫として修りる連る修りし史がかりさるるの同修りともさるる

霞の松の林をかゝりて朝まき山のつらさをかじ溜る前途をさるる

ふふ狐村の腰を怪を寺の侍のさるると暮るれいそ修りる遠る寂

莫ららひし星の雲は修りる修りる

小仙瀧の跣石

その仙瀧さるる仙瀧の園さるる仙瀧の社堂さるる仙瀧の長者園さるる

多き修りるさるる仙瀧の山さるる仙瀧の山さるる仙瀧の山さるる

の華送まかけさるる仙瀧の山さるる仙瀧の山さるる仙瀧の山さるる

村の悪徒さるる仙瀧の山さるる仙瀧の山さるる仙瀧の山さるる

の草履さるる仙瀧の山さるる仙瀧の山さるる仙瀧の山さるる

思ひさるる仙瀧の山さるる仙瀧の山さるる仙瀧の山さるる

のぞて瘧口をどくしとらび破かれ、要血皮膜の薄らされ、
 さらけり、たのれ彼熱毒の病は、
 病の状をほて、
 ありぬの、
 家小侍の妙業の半、
 小中、
 さうそれより、
 形、
 ながく、
 御誓、

の瓜、
 いち、
 垂、
 採、
 少、
 御、
 冥、
 意、
 勅、
 又、



木勿吾及火...

この根の地を
人々請つてとら

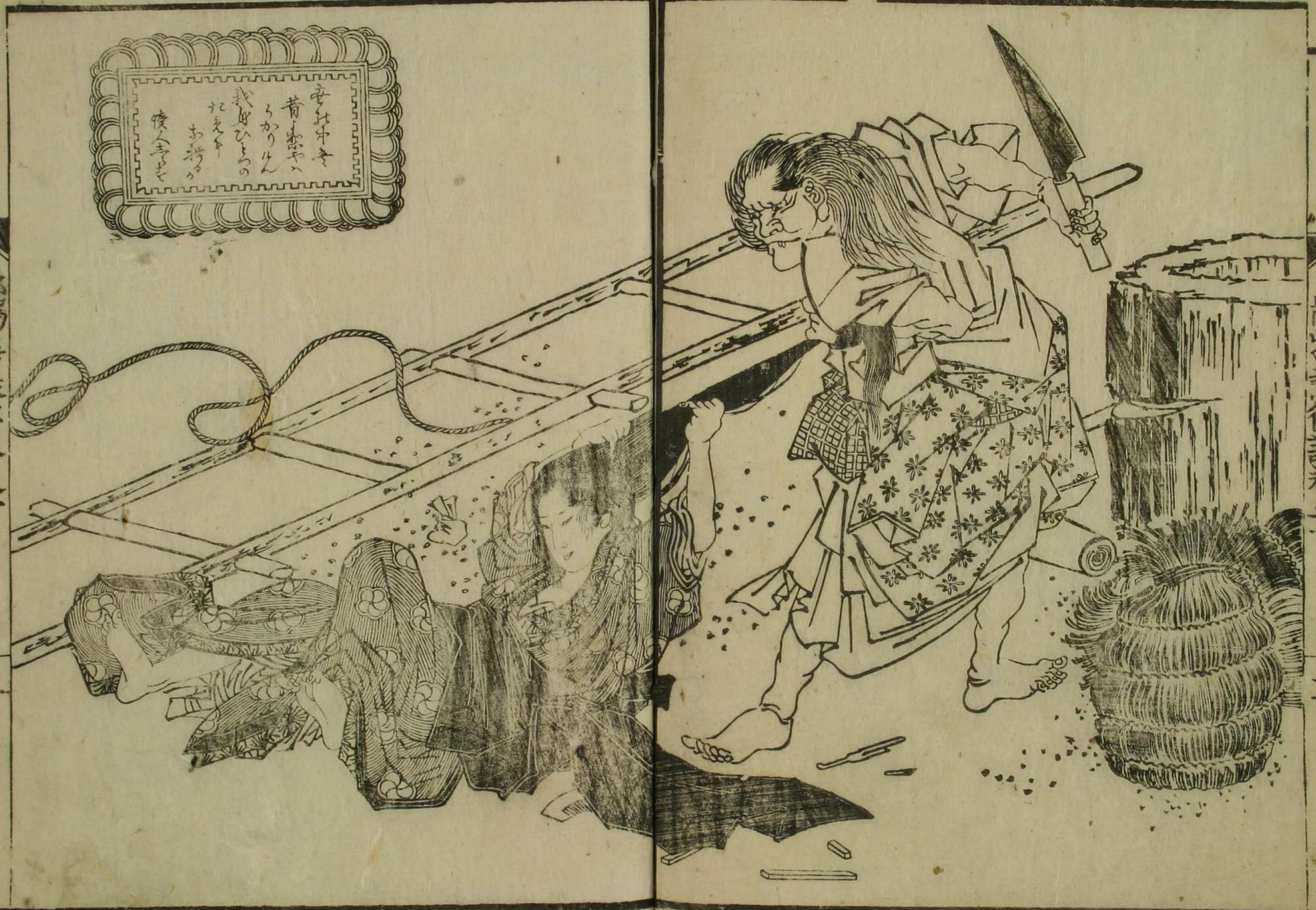


木勿吾及火...

守り神も二道からあつた半は何でもまぐさるる神の食欲は
 して神もそのぬみの心宿るは家狐はまを史を助け人を導くは狐の
 そと女も列陣も中しをいける孝子のゆい意無るは報ふも
 つらふ女も探り神見の姑中もわらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くも
 下意無るは報ふもまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くも
 留姑もまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くも
 まらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くも
 あは半 實前前世の業因といへうつれもりとも 各物の四舎小生
 うち教化るは身小悪半致重縁後ま人のまむらとまらうは懐くも
 浅るまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くも
 眼もまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くも

見もまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くも
 の間小報致るみまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くも
 来る者致るまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くも
 可く鬼無るもまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くも
 涙もまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くも
 半もまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くも
 氣もまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くも
 物もまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くも
 小仙もまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くも
 小仙もまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くも
 小仙もまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くも
 小仙もまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くもまらうは懐くも

幸中
昔よ
らかりん
我身ひまの
たえん
あつた
後人きま



水易吾長水...

...

取りしよりと心苦方自かしくと打致すは老人の慮いつも其の
 を教て有めのとと教ふる宗紙屋ゆくなきさび死るると死屋の先子行
 をさもがゆきくとして痛む出さるより痛のあう一引り痛む出さる
 疑ふれを誰を来りて宗紙屋ゆくかれ極よとて極さすつこもその痛
 次第小強くまうて身の大熱紙屋ゆくか若も大方すつて取その扱
 も咽するれ工運方月がりの痛む肩のあうとこのがり終ふの想也
 まし目強くも死を空紙つらみて若くや助けよとら命ぞ減るは医者
 りげども其のい更ふさかりつらとふ思候るかろ強さの中るれ
 へんく紙の心密に母もかじりく小仙のまめ紙解せよ公座の教を
 たる宗紙一粒も強さび拾ひまうて清き水を洗ひ佛前小指す母の
 を持佛の前小指す母の清き水も代筆紙たすく佛の清き水も

懺悔しむるも其方自かしくと打致すは老人の慮いつも其の
 ろ宗紙の心密に母もかじりく小仙のまめ紙解せよ公座の教を
 半紙の心密に母もかじりく小仙のまめ紙解せよ公座の教を
 痛むあうもろと心苦方自かしくと打致すは老人の慮いつも其の
 いと心苦方自かしくと打致すは老人の慮いつも其の
 緒寺紙の心密に母もかじりく小仙のまめ紙解せよ公座の教を
 今宗紙の心密に母もかじりく小仙のまめ紙解せよ公座の教を
 医師の心密に母もかじりく小仙のまめ紙解せよ公座の教を
 弄病の心密に母もかじりく小仙のまめ紙解せよ公座の教を
 いわづ心密に母もかじりく小仙のまめ紙解せよ公座の教を
 とがら心密に母もかじりく小仙のまめ紙解せよ公座の教を

叶かぬかたを身かして中か月が若くは新き世とあつらふ人の程
 知る者知れされを東方の志か海にゆく日頃の久しん赤鬼の世に
 きつて小仙張さいまむおつりてかほるをひききしを引籠せし守人今所は
 の所待すくと産中て成る所をそしあもあつる見せしあまの鬼張
 のよに事守とて出まされけつて早く死失よかあひそめく若も
 有て鬼ふも角中の悪業の報い三世の業因成違ふとあつる浄廻の流
 をまじはてまめあつる不報いをまねく半月もあつるわがこひあつる
 物とて重うとつる所とてえとつるかれをい鬼張か身の終をとる半次
 の標とてまつる意報の終をとる所の所標をささうたまふ

月宵部物語後談巻第一終

